




---

 巻 頭 言
 

---

## 会長就任に際して

穂 坂 衛\*

私、今回当学会の会長に推薦されまして、驚き大変な当惑を感じ、初めは固辞したのでありますが、諸般の事情から自分の仕事をある程度犠牲にしてもこの大役を引き受けざるを得ないのではないかと思うに至りました。もちろん身にあまる光栄であります。今は責任の重大さをひしひしと感じております。歴代の会長はこの分野の先駆者、すぐれた学者、またトップの管理者であられ、正に会長にふさわしく会の運営に必要な影響力を十分にもっておられて、学会の発展に尽くしてこられました。私はその何れでもなく、影響力の持ち合わせのないことは自分が最もよく知っている所であります。しかしお引き受けした以上は、誠意と努力をもち、会員、理事役員、事務局員の皆様の御協力を得まして、本学会の目的を常に見失わず、広い見解と先見性をもって、会員の要求に答え、光栄ある学会の歴史を受けつぎ発展させてゆきたいと決意しております。

北川前会長は昨年の大会におきまして、本学会の抱える問題を指摘され、その対策を示唆されております(会誌本年2月号所載)。それは学会の規模と活動についての考察、学会誌のあり方、研究会の数とその活動、国際学会と本学会との関係、および創立20周年の記念事業についてであります。すでにいくつかの対応策が立てられ、あるものは今期に持ちこせると聞いております。私共はこれらについて問題処理の継続をはからねばなりません。それに対して、多くの方々の御意見を承り新しい視点からさらに検討を加えることも必要かと存じます。

申すまでもなく、学会はその目的に賛成された会員

\* 本会会長 東京大学宇宙航空研究所教授

に基盤をおいております。当学会の会員の専門分布が多様である如く、学会に対する考え方、価値判断の基準も広く分布していると思います。それはややもすると混乱に陥り易くはありますが、多様性の中に共通するものを認識し、相互に理解し利用する努力を積極的に行うならば、この多様性を利点にすることができると思います。

現在は LSI や光ファイバを中心とするエレクトロニクス革命によって、情報処理の科学や技術は大きな転機にさしかかっています。私達が20年前に経験した未分化の時代の面白さが、レベルを変えて再び我々の手もとに戻りつつあるように感ぜられます。個人のコントロールできる範囲が、抽象の理論の世界だけではなく、他方では一般論や抽象理論も実証を逃れるわけにはいなくなって参りました。さらに現代の重要な問題は、情報の氾濫であります。それに対処する我々の努力がなければ、紺屋の白袴のそしりを免れないでしょう。学術情報の生産と流通だけをとり、人に理解され易い表現、内容の実証および機械で処理できる表現方式を積極的に考えない限り、ほとんどアクセスされない論文や報告が手もとにたまっては捨てられ、一方必要とする情報は仲々得られず重複した努力が行われ、それがまた報告書を増加させるという循環が生じています。これらの問題にも学会は自分のこととして対応する必要があります。

学会も一つのシステムであり、しかも可制御でない要素や外乱を多くもっております。このシステムを最適化の方向から外れないように保つのは難問であります。重ねて御鞭撻、御協力をお願い致す次第であります。(昭和52年5月20日)